



2025年2月28日

日本鉄道労働組合連合会

## 貨物鉄産労「第38回中央委員会」

# 安全確保の強化に取り組み、人財確保に向けた賃金引上げを

### 第38回中央委員会



辻村中央執行委員長

貨物鉄産労は2月10日、大阪市内で「第38回中央委員会」を開催し、2025春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針を確立した。

主催者挨拶で辻村和裕中央執行委員長は、輪軸組立作業におけるデータ入力に関する不正について取り上げ、安全確立に向けた取り組み強化が必要だと言及するとともに、JR貨物の経営問題に触れ、「人財の確保・定着が難しくなっている中、賃金を含め魅力ある会社を作っていくことが重要」と指摘し、今次闘争に力強く臨んでいく姿勢を示した。また、JR連合の相良夏樹組織局長と交運共済の本田雅明専務理事が連帯の挨拶を行った。



鈴木中央執行

議事では、執行部が「15,000円のベア要求」「期末手当年間4.8ヵ月以上（夏季2.3ヵ月以上、年末2.5ヵ月以上）」を軸とする今次闘争方針を提起したほか、JR連合とともに線路使用料に係る課題の解決に取り組んでいくことやユースラリー等を活用して組織拡大に取り組んでいくことを提起した。

これらの議案に対し、各地区を代表する9名の中央委員から発言があり、今次闘争に対する期待や具体的な追加要望が複数出されたほか、社内で深刻な人手不足が生じているとの指摘や組織拡大に邁進していこうとの呼びかけ等もなされた。



執行部答弁では、辻村委員長が集約を担う形となり、要員不足が改めて指摘されたことを受け、人財の確保・定着に向けて「欲しいものは欲しいと働きに見合った賃金を求めていく」と決意を述べた。その後、鈴木教仁中央執行委員の委員会宣言読み上げを経て、辻村委員長が団結がんばろうで委員会を締めくくった。